

受講番号 19063 学校名 三里中学校 氏名 植松 理恵

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 100名
科目名 1年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon English Course 1

クラスの様子・特徴

明るく元気な生徒が多く、落ち着いて学習できている。男女の仲がよく、ペア活動や班活動もスムーズに行える。しかし、学力的に差があり、英語に対して苦手意識を持っている生徒がいる。

問題の確定

単語を読んだり、書いたりすることが苦手な生徒が各クラス数名いる。語彙力を高めるために、音読指導が必要である。

予備調査

A 授業の観察

全体的に落ち着いて学習できているが、一斉音読や発表は一部の決まった生徒になりつつある。英語に対して苦手意識を持っている生徒は、授業中も主体的に取り組む姿勢があまり見られない。

B 生徒による授業評価

楽しくわかりやすい授業を望んでいる。音読するのに自信がない生徒や、単語が覚えられないといった課題を抱えている生徒が半数いることが分かった。

C 学力データ

1学期の中間テストの平均点が73点、期末テストの平均が64点であった。アルファベットや単語が書けない生徒がどのクラスにも4、5人いることがわかった。

リサーチ・クエスト

英語に対して苦手意識を持っている生徒に音読する力をつけさせ、語彙力を定着させるにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

新出単語の発音、意味を班で教え合い、学習することで、ふだんあまり意欲がない、英語が苦手な生徒も授業に参加し、語彙力が身につくのではないかと。

実践1

新しいUnitに入る前に、Unit全部の新出単語カードを黒板にはり全員で発音、読み方を確認。生徒全員が授業に参加できるように、班になり単語の読み方のみを暗記、覚えた班から読み方のテストをし、合格した班はその単語の意味を暗記、という活動を行った。班競争で行うため、より早く確実に覚えるかが必要とってくる。

検証1

班で行う学習なので、全員が参加し単語の発音、意味を覚えようとする努力する姿が見られた。班により様々な学習法の工夫が見られた。アンケート結果でも、楽しく協力して単語を覚えることができたという肯定的な意見が半数以上であった。しかし、班によりあまり協力できないことや少し騒がしくなること、あまり効果がなかったという意見もあった。また、その活動を行うのに1時間使うので、すべてのUnitにこの活動を行うのは時間的に厳しい面もある。

仮説2

新出単語を読んだり、書いたりする時間を増やせば、語彙力が定着するのではないかと。

実践2

仮説1で学習した単語をNew Wordsのワークシートにして授業の初めに毎時間、一斉に発音し、その後個人で1分間何回言えるか目標を決め語彙の定着を図った。また、その単語のプリントを使って書く練習をしたり、ビンゴをしたりして語彙の復習、確認を行った。

検証2

New Wordsのワークシートを使った1分読みは毎時間行っていたため、生徒たちもその取り組みに慣れ、スムーズに行えた。1分間の間はほぼ全員が前向きな姿勢で自己更進をめざし、集中して取り組んでいた。アンケート結果からも単語が自然に身についた、発音がよくなった、早く読めるようになったなどの意見があり成果が見られた。定期テストでも単語を覚えよう、書こうとする態度が見られ、テストの点が上がっている生徒が多い。

仮説3

教科書の本文を音読する際、様々な音読の仕方を取り入れ、音読の回数を増やせば、自信を持って音読できるのではないかと。

実践3

本文を音読する際、イントネーションを意識して行うようにイントネーションが入ったプリントを生徒に配布し、それを見ながら発音した。全体で音読練習をした後、ペアになり練習した。読み方にも慣れたらCDの後についてシャドーイングを行った。また音読カードを作成し、本文を何回読んだか記入するように指導した。本文を5回読んだら☆1つ記入、☆5つを目標にした。

検証3

イントネーションを意識した読み方によって、パートごとの本文音読回数25回以上を目標にすることで読み方、音読回数を意識し、空いた時間に自主的に音読に取り組む生徒も何人か見られた。シャドーイングを行うことで、本文が早く読める、覚えようとするようになったなど効果がでている生徒は少しいたものの、難しくついていけない生徒も多く、全員がある程度取り組めるような手立てが必要であったように思う。

研究の成果

音読指導に力をいれていたため、単語、本文の音読回数を今まで以上に増やすことができ、声の大きさもアップしたように思う。英語が苦手な生徒も単語の読み方を班、ペアで協力して行ったため、友だちから学ぶことが多く励みになり授業にも参加できた。アンケートからも単語や本文を繰り返し読む活動は自然と頭に入ったという回答があり、その結果、テストでも役立った生徒も多いように思う。

今後の授業改善の課題

全体的には音読練習に積極的に取り組めた半面、定期テストの結果から英語が苦手な生徒全員には十分に語彙の定着が図れていないように思う。授業での読み書きの繰り返しと同時に自主的に学習する態度を身につけなければ定着には結びつかないと感じた。また音読がどれだけ向上したか1学期と比較するために2学期にも音読テストを行うべきであった。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-847-0291